

英語科 学習指導案

日 時 平成20年11月10日(月) 5校時
学 級 1年3組(男子15名 女子19名 計34名)
場 所 1年3組教室
授業者 宮 明子

1 単元名 Unit 8 「はじめてのカナダ旅行」 New Horizon English Course Book 1

2 単元について

(1) 教材観

主人公のマイク、絵美、慎、ジュディの4人が、冬休みにカナダへ旅行に行くという設定が Unit11 まで続く。この単元は、日本を発ちカナダの空港に降り立つまでを扱っている。身近な日常から一歩外へ出る場面設定としての海外旅行のストーリーである。Part 1は、出発当日に朝寝坊してしまったマイクと母による航空券などの持ち物がどこにあるか尋ねる対話 Part 2では待ち合わせのバス停でのカメラや鞆などを見て持ち主を尋ねる対話、Part 3は空港で見かけた有名人についての対話など、実際にありそうな場面が設定されている。

本単元では疑問詞 Where、Whose で始まる疑問文、mine、yours などの所有代名詞を用いた応答文、そして him、her などの人称代名詞の目的格を学習し、英語による表現の幅を広げる。

身の回りのことや持ち物について語る表現は生徒にとっても日常生活と重なり、イメージしやすい場面であると考えられる。また、矢巾町はアメリカ・ミシガン州フリモントとの交流があり、ホームステイなど外国の生活に興味を持つ生徒も多い。使用している英語が日常生活感を伴うよう、指示を明確にし、自信を持って話せるように繰り返し練習することで、新出文や語句の定着を図りたい。

(2) 生徒観

既習の疑問詞で始まる疑問文には、What(Unit 4)、How many(Unit 5)、Which(S.P. 2)、Who (Unit 7)、What time(Unit 7)があり、Wh-疑問文の表現にも慣れつつある。しかし、どんな場合にどの疑問詞を使えばよいかという場面を想定して考える力や、どのように文を作るかなど言語の知識はまだ不足しており、これからの課題である。

男子は音読や発言を元気よく行う。女子は答えがわかり、考えがあっても、なかなか発言に結びつかない。女子の音読の声は小さく、そのことが基礎・基本の定着に繋がらない原因であると考えられる。しかし、グループでの教え合い学習をすることはできるし、授業に前向きである。指導にあたっては、スモールステップを踏んで、「できた」と感じる瞬間を積み重ね、学習の意欲が持続するよう指導方法を工夫したい。

生徒はよく「読めるけれども書けない」と話す。口頭練習を十分に行い、本文などの音読が滑らかにできれば、書く活動へ結びつくことができる。話しっぱなしにせず、書いてまとめることで、文字でも視覚的にも定着すると考える。

平成20年度に実施された学習定着度状況調査の結果を見ると、男子はQ1で英語学習の必要性を感じている割合が大きいが、女子は必要性を感じていない割合のほうが高い。しかし、Q2では英語の学習を好きな割合が高いので、英語学習の目標や意義、生活との関連を明確にすることで、学習に意欲的に取り組むことができると考える。

【平成20年度 岩手県中学校学習定着度状況調査より】

〈Q1〉あなたは英語の教科の学習が大切だ（必要だ）と思いますか。

	大切だ(必要だ)と思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	大切(必要だ)と思わない
男子(15名)	33%(5名)	33%(5名)	13%(2名)	20%(3名)
	66%(10名)		33%(5名)	
女子(19名)	21%(4名)	26%(5名)	47%(9名)	5%(1名)
	47%(9名)		52%(10名)	
全体(34名)	26%(9名)	29%(10名)	32%(11名)	12%(4名)
	55%(19名)		44%(15名)	

〈Q2〉あなたは、英語の教科の学習が好きですか。

	好きだ	どちらかといえば好きだ	どちらかといえば好きではない	好きではない
男子(15名)	53%(8名)	33%(5名)	13%(2名)	0%(0名)
	86%(13名)		13%(2名)	
女子(19名)	37%(7名)	58%(11名)	0%(0名)	5%(1名)
	95%(18名)		5%(1名)	
全体(34名)	44%(15名)	47%(16名)	6%(2名)	3%(1名)
	91%(31名)		9%(3名)	

(3) 指導観

間違ってもよい雰囲気を作ることと、英語の授業では必ず声に出して話さなければならないという雰囲気を作ることとに努めてきた。しかし、教師の発問に対して口は動くものの、大きい声で答える生徒は少ない。声なき声に耳を傾け、話そうとしている努力をほめると同時に、発言回数の記録も行ってきた。そして、発言できる機会を増やすことで、徐々に挙手する生徒が増え、女子の中からも発言が見られるようになった。

口頭練習を十分に行い、自信を持って取り組めるようにしたい。そして、自分から声を出さなければいけない状況を作り、制限時間を設けて追い込み、英語を用いる時間を増やしたい。設定した目標をクリアする生徒へも次なる課題を提示しながら、学習の継続を促したい。また、具体的な場面や状況を想定しやすい活動を設定したい。

3 単元の目標

- (1) **Where**・・・?の文を使って、ものがどこにあるか尋ねたり、それに答えたりすることができる。
- (2) **Whose**・・・?の文を使って、ものの持ち主について尋ねたりそれに答えたりすることができる。
- (3) 人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現できる。

4 単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	評 価 規 準			
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 本 時	・ Where ・・・?の文を使って、ものがどこにあるか尋ねたり、それに答えたりすることができるようにさせる。	・ 適切な音量と速さで、意欲的に話している。	・ 場所を尋ね、正しく応答している。		・ Where を含む疑問文とその応答文の構造を理解している。
2	・ Whose ・・・?の文を使って、ものの持ち主について尋ねたり、それに答えたりすることができるようにさせる。	・ 学習したことをもとに意欲的に対話している	・ 持ち主を尋ね、正しく応答している。		・ Whose を含む疑問文とその応答文の構造を理解している。
3	・ 人称代名詞の目的格の形、意味、用法を理解し、表現できるようにさせる。	・ 学習したことをもとに意欲的に対話している	・ 人称代名詞を用いて尋ね、正しく応答している。		・ 人称代名詞の目的格の形、意味、用法を理解している。
4	・ 人称代名詞を復習し、理解を確かめさせる。 ・ 疑問詞を整理し、理解を確かめさせる。		・ 正確な発音で音読できる。		・ 形、意味、用法を理解している。

5 本時の計画

(1) 指導目標

- ア どこにあるか尋ねる英語を使い、意欲的に言語活動に取り組むことができる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- イ ものがどこにあるか尋ねたり、それに答えたりすることができる。
(表現の能力)
- ウ **Where**・・・?の文と応答の形・意味・用法を理解し適切に使用することができる(知識・理解)

(2) 指導の構想

一語からまとまりへ、そして文へつなげる段階を踏んで、「自分は話せる」と自信を持って取り組めるように音読練習をしっかりと行いたい。ポイントを絞り、指示を明確にして活動にじっくり取り組ませたい。わからないことを教え合うことを一番に据えていく。課題ができた生徒へは、次の課題を用意したい。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
関心 ・ 意欲 ・ 態度	・自分から話しかけ、何度も挑戦するなど、言語活動に意欲的に取り組んでいる。	・相手とのタイミングが合っている。 ・聞こえる声で音読練習を行っている。	・少しでも話そうとしていることをほめる。 ・継続を促す。
表現	・ Where is ・・・?の形で疑問文を作り、正しい前置詞を用いて文を話せる。 ・ 正確な発音、イントネーション、適切な音量、速さで対話できる。	・ Where is ・・・?の形で疑問文を作り、前置詞をおいて文を話せる。	・ 発音を再度説明する。 ・ わからないところは何か確認し、励ます。
知識 ・ 理解	・ 疑問詞を含む疑問文と応答文、場所を表す文の構造を正しく理解している。	・ 疑問詞を含む疑問文と応答文、場所を表す文の構造を概ね理解している。	・ つまづいているところを再度説明し、理解を促す。 ・ 励ます。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点（方法）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ Greeting ○ アタック 5 ○ 復習 1 学習課題の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ dictation ・ 指定された既習ページの音読をする。 ・ 教師の話す英語から内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速度を変えながら ・ 部分的にでも書く ・ リズムを意識して ・ ポイントを簡潔に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四線のシート ・ 机間巡視
展開	学習課題：「～はどこにあるの?」「それは・・・にあるよ」 Where・・・?を使って、もののある場所を尋ねたり、答えたりできるようになる!!			
35分	<ul style="list-style-type: none"> 2 学習課題の追究 3 学習課題の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習①（前置詞の口頭練習） ・ 練習②（ハターンプラクティスで Where・・・?の疑問文と応答文を練習する） ・ ペア活動（カードを持って友達と Where・・・?を使って会話する） ・ 新出語句の練習（新出語句をフラッシュカードで発音練習） ・ 本文の学習 内容の理解（PC の場面について推測する。教師の問いかけに答える。読みのポイントに答える） ・ 音読練習（本文を音読し、自分の課題を確認する。ペアを作りローテーションで読む） ・ 発表（指名読み） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よく聞いてリズムよく話せるように（一斉→個人） ・ 基本表現を何回も話すようなカードを用いる ・ どのように発音するか想像させて、文字と発音を一致させる ・ 閉本のまま行う。（学習シート） ・ リズムを意識させる ・ テンポよく（教え合いを優先させる） ・ よかったところや要改善点を話す 	<ul style="list-style-type: none"> 【表現】 ・ 適切な音量で対話できる・ ・ 文法を正しく話している。 【関心・意欲・態度】 ・ わからないときは尋ねる ・ 教え合いができる ・ ペア練習を積極的に行っている
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の基本文を口頭で話す。 ・ 家庭学習を確認する ・ 学習内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できないときは再度説明する。 ・ 教師の後に繰り返す ・ 分量を考える ・ シート、会話文 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 ・ Where・・・?の文を使って尋ねる表現、答える表現がわかるか